

視点

先日、新聞に取り上げられたように古くて新しい取り組みが四万温泉で始まった。群馬県観光物産国際協会を窓口、健康推進企業のタニタと一緒に国が推進するヘルスツーリズムに挑む。食事と四万滞在を通して健康をあらためて考える機会を提案する。

一昔前、四万は連泊を主とする湯治文化で栄えていたが、今は1泊の方がほとんど。手つかずの自然、そして本物の温泉を堪能するには1泊では短すぎる。生まれも育ちも四万で104歳になる生き字引の祖母は、昔は遠方から馬車に揺られて自炊用の米や野菜を袋に詰め込み、健康のために長期滞在する湯治客でにぎやかだったと話す。

温泉がどこでも入れる気楽なものになったことで、本来の価値が薄れてしまった感がある。その文化を取り戻すため1泊より2泊の滞在を楽しめる温泉地の創造を目指す。体によい名物料理の開発、ゼいたくを極めた旅館料理と一線を画した栄養バランスを考えた健康志向の料理を模索する。地元の食材にこだわったおいしくて体によいものを提供するのが目的である。

正しい温泉の入り方や飲泉の方法をはじめ、山と川を楽しめる散策コースも同時に提案する。「世の塵洗う四万温

感し、マイナスイオンたっぷりの空気を吸い込み、空の色、鳥の声、虫の鳴き声を聞き、素朴な人との会

「泉」で温泉にゆっくりりとつかり、飲泉し、おいしいものを食べ、川の冷たさを実感し、マイナスイオ



中之条町四万

よしのり
良則

せき
関

四万温泉協会会長

温泉と食で新たな湯治

意識改革をもたらし、健康推進に寄与するだろう。これも大きな目的の一つである。

連泊によりお客さまの滞在時間が増えるため、宿同士、飲食店との連携が重要な要因になる。1泊目と2泊目の宿を変えることにより、目的の異なる旅を提案する。山菜、川魚料理、手作りそば、家庭的な料理、あるいは料理長のこだわり料理が自慢の宿、バイキング形式で多くの料理を選べる宿。または1泊を料理なしの素泊まりにして、近くの飲食店でおすし、おそば、ラーメン、とんかつ、パスタを味わってもらってもいい。

旅館、商店の協力がないと成り立たないが、「一山一家」を提唱する四万なら不可能ではない。温泉・自然・文化・人という「既存」の魅力を再発見し、互いの良さを認めて「連携」し、共通の夢「未来」を描く。次世代の若者は誇りを持って他の地に出かけ、素晴らしい知識を得てこの地に帰り、地域をさらに発展させていく。

国民保養温泉地第1号指定の四万温泉は健康・癒やしというキーワードで人の力とアイデアを結集し、日本人のみならず外国の方にも喜ばれる日本を代表する和の滞在型リゾートを構築し、21世紀の新たな湯治文化を創造したい。

【略歴】国学院大卒。日

本旅行退社後、四万温泉に戻り、家業の旅館「つるや」の社長に就任。元

中之条町議1期。中之条中剣道部外部講師。著書

ヘルスツーリズム

話に花が咲けば、旅人にとってかけがえのない時間になるに違いない。楽しい旅の中で気づいた健康に対する知識はお客さまの

こ「奇亦の丸赤」。